

事業番号	15 07 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	生徒指導推進事業費				部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課	
					実施期間	S58 ～	E-mail	kokoro @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

- ・不登校児童生徒は増加しており、それぞれのニーズに合った支援を行う必要がある。そのため、学校以外の場でも学びが継続できる仕組みを検討する必要がある。
- ・不登校の増加や長期化、また貧困・家庭環境の悪化に対応するため、スクールカウンセラー（以下 S C）による予防的取組や、スクールソーシャルワーカー（以下 S S W）による市町村の福祉部局との連携が必要。
- ・スマホ所持やインターネット利用の低年齢化が進み、ネットトラブルやネットいじめの増加、使用時間の増加傾向が見られることから、学校と保護者が連携した予防的取組が必要。また、ICTの活用状況について調査と啓発が必要。

2 事業目的

- ・いじめ・暴力・不登校などを未然防止する。
- ・不登校児童生徒がそれぞれの学びたい場所及び方法で学べるようにする。
- ・いじめや不登校などの悩みについて子どもや保護者等が安心して相談できるようにする。
- ・性被害防止に関する指導・情報モラル教育によって、子どもたちを性暴力の被害者にも加害者にもさせない。

3 事業目的を達成するための取組

- ①不登校児童生徒の学習機会の確保及び社会的自立に向けた支援
- ・不登校児童生徒等を支援するため、市町村への補助により、地域人材を活用した中学校校内教育支援センター支援員の配置及び機能強化等を促進
- ②SCによる予防的・早期発見の取組及びSSWによる児童生徒を取り巻く環境等の改善を実施
- ・S C 事業において、医療的な支援を必要とする子どもの早期洗い出しのため、全小学4年生、中学1年生及び全高校1年生に対し、学年会への出席や全員面接を実施
 - ・S C 事業において、早期に支援を開始することにより二次障害や疾患の重篤化を防ぐため、臨床心理の専門性を活かし、ストレスマネジメント等の心理教育を実施
- ③相談窓口設置による学校生活に関する様々な問題の改善を実施
- ・いじめや不登校など、学校生活における児童生徒や保護者の様々な悩みについて相談に応じるため、フリーダイヤルの24時間相談窓口を開設
 - ・いじめや不登校などに起因する自殺防止のため、中学生・高校生向け L I N E 相談の窓口を通年で定期開設

4 成果指標

(推移の凡例 ↗ : 改善 ↘ : 悪化 → : 変化なし — : 数値なし)

No.	指標名	単位	R5年度	R6年度		R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
②	S S W の介入により一定の改善が図られたケースの割合	%	63.2	63.9	↗	63.9	→	61.0	達成	令和4年度実績の数値(60.9)に対し、次年度は同程度を維持することを目標に当該数値を設定した。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	不登校児童生徒が学校内外で専門的な相談・指導を受けた割合	%	2022 (R4)	67.4	2023 (R5)	67.6	2024 (R6)	67.2	2027 (R9)	66.6

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	470,946	23,771	494,717	310,994	439,862	13.0
R6年度	0	422,069	38,749	460,818	296,158	423,994	13.0
R5年度	0	397,336	25,150	422,486	261,367	393,633	13.0

事業番号	15 07 01	事業改善シート（令和 7 年度実施事業分）			☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	生徒指導推進事業費			部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課	

7 主な取組実績と成果

①不登校児童生徒の学習機会の確保及び社会的自立に向けた支援

・全市町村教委を対象にした不登校児童生徒への支援の仕組みづくり研修会を年 1 回、有識者等が不登校に係る課題を協議する懇談会を年 3 回実施した。また、1 市町村にアウトリーチ支援員を配置することで、家から出ることができない児童生徒のニーズを把握し、社会とのつながりを維持するための支援の仕組みづくり等検証を推進した。

②SCによる予防的・早期発見の取組及びSSWによる児童生徒を取り巻く環境等の改善を実施

・全ての公立小・中学校へ計31,866時間、県立高校及び県立特別支援学校へ計7,748時間 S C を派遣し、支援を必要としている児童生徒の悩みに適切かつ迅速に対応した。また、S S W を教育事務所に配置するとともに市教育委員会に派遣し、児童生徒の問題の背景にある家庭的な問題の改善に向けた支援を計23,515時間実施することで、児童生徒を取り巻く環境等の改善を図った。

③相談窓口設置による学校生活に関する様々な問題の改善を実施

・24時間相談電話で年間を通して臨床心理士又は公認心理師 1 名を配置し、夜間休日は民間に委託して常時 2 名以上の相談員による対応を行い、L I N E 相談「ひとりで悩まないで@長野」を毎週水曜日と10・2月以外の日曜日にも開設し、年間で95日間窓口を開設することで、学校生活に関する様々な問題の改善を図った。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ②	S S W の介入により一定の改善が図られたケースの割合	R6年度推移	↗	R7年度推移	→	達成状況	達成
フルタイムSSWの任用、SSWの増員及び支援時間の増加により、対応件数を増やすことが出来たことで、連携のケースも増加した。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

・不登校児童生徒等への支援に関して、心理的安全性が確保された居場所の理解を広げるとともに、多様な学習機会を確保して社会的自立に向けた支援の仕組みづくり等をさらに推進していく必要がある。

・相談体制の充実のためにSC及びSSWの人員及び支援時間増と支援内容の質の向上が必要であり、学校現場からもそれを求められている。

(2) 事業改善の方策

・不登校児童生徒等の支援を目的に、支援員を校内教育支援センターへ新規に配置する市町村に対する費用の一部補助や、既存の支援につながりにくい不登校児童生徒を対象としたメタバスを活用した支援等様々な面から、事業を引き続き推進していく。

・SC及びSSWについては、引き続き人員及び支援時間増と支援内容の質の向上を検討していく。

事業番号	15 07 01	細事業一覧（令和7年度実施事業分）	□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検			
事業名	生徒指導推進事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課

細事業No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	生徒指導推進事業費	368,423 千円	399,006 千円	415,466 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	いじめ・不登校等総合対策	直接 補助金	・不登校児童生徒等を支援するため、市町村への補助により、地域人材を活用した中学校校内教育支援センター支援員の配置及び機能強化等を促進 ・アウトリーチ支援員の配置により、家から出ることができない児童生徒のニーズを把握し、社会とのつながりを維持するための支援の仕組みづくりを促進 ・中学校校内教育支援センター支援員：14市町村18校分配置 ・アウトリーチ支援員：1名配置	
2	子どもの自殺対策の推進	委託 直接	子どもの自殺予防対策のため、高校生・教職員・保護者を対象としたコミュニケーション能力向上研修を実施する。 ・高校生を対象としたコミュニケーション能力向上研修等：60回実施 ・教員研修会（アセス（学校環境適応感尺度）に関する研修会含む）：4回実施（全ての公立中学校・県立高校の教員が参加）	
3	スクールカウンセラーによる心の支援	直接	全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、学習に取り組めるよう、児童生徒の悩みに適切かつ迅速に対応できるスクールカウンセラー（公認心理師、臨床心理士等）を配置し、各学校における相談体制の充実を図る 支援を必要としている児童生徒の相談対応のため、全ての公立小・中学校へ計31,866時間配置、県立高校及び県立特別支援学校へ計7,748時間派遣	
4	スクールソーシャルワーカーによる福祉的支援	直接	いじめ、不登校、暴力行為などの支援を要する児童生徒の背景にある環境要因に働きかけるため、社会福祉や精神保健福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーを配置し、地域や専門機関等と連携して総合的な支援をする。 教育事務所に配置するとともに市教育委員会に派遣し、児童生徒の問題の背景にある家庭的な問題の改善に向けた支援を計23,515時間実施	

細事業No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	学校生活相談体制充実事業費	23,825 千円	23,536 千円	23,848 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	24時間相談電話	委託 直接	いじめや不登校など、学校生活における児童生徒や保護者の様々な悩みについて相談に応じるため、フリーダイヤルの24時間相談窓口を開設 年間を通して臨床心理士又は公認心理師1名を配置。また、夜間休日は民間に委託し、常時2名以上の相談員が対応	
2	L I N E相談「ひとりで悩まないで@長野」	委託	中学生・高校生の通信手段が電話からSNSに移行していることを踏まえ、通年で定期開設し、いじめや不登校などに起因する自殺防止に向けた相談を行う。 毎週水曜日と特定月の日曜日にも開設し、年間で95日窓口を開設	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
3	性被害防止に向けた指導充実事業費	1,385 千円	1,452 千円	548 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	子どもの性被害防止教育キャラバン隊の学校派遣	直接	専門家を活用した「性被害防止教育キャラバン隊」を編成・派遣し、子どもたちの「危険を察知し回避する力」を育成する。 教職員研修会を開催し、指導力の向上を図るとともに、児童生徒向けの啓発資材を作成し、配布する。 ・インターネットを介した性被害を防止するための専門家：140回学校派遣 ・教職員向けの性被害防止のための指導方法等研修会（オンライン・全県開催）：1回実施	